

平成30年度（第63期）事業計画

1. 行事予定

行事名	期日	場所	摘要
日中トライボロジー先端フォーラム	平成30.4.12-14	福岡	第9回
トライボロジー会議 2018 春 東京	平成30.5.21-23	東京	
第62期定時社員総会・特別フォーラム	平成30.5.22	東京	
平成29年度評議委員会	平成30.5.22	東京	
トライボロジー入門講座	平成30.7.5-6	東京	第49回
トライボロジー入門西日本講座	平成30.10.4-5	兵庫	第11回
トライボロジー秋の学校	平成30.10.4-5	愛知	第9回
トライボロジーテーマ別基礎講座	平成30.10月予定	東京	第11回
トライボロジー会議 2018 秋伊勢	平成30.11.7-9	三重	
トライボロジー国際技術交流会	平成30.11.22-23	タイ バンコック	第4回
トライボロジー・スキルアップ講座	平成30.11月予定	東京	第11回
トライボロジー先端講座	平成30.12月予定	東京	第64回
トライボロジー懇談会	平成30.12月予定	東京	第455回

2. 会誌

会誌を毎月発行する。特集は「優れた若手研究者に学ぶ ―異分野の研究―」、「高性能潤滑剤設計のための新たな材料と技術」、「船用エンジン」、「金型のトライボロジーの最新研究動向」、「ベルトにまつわるトライボロジー」、「IoT時代におけるインフォメーション」、「いろいろな微細加工を通じた表面創製」、「医療を支えるトライボロジー」、「セラミックスのトライボロジー(3) ―高機能化のための技術―」、「トライボロジー学会 研究会 新年抱負表明」、「自動車用エンジンの動弁・駆動系を支えるトライボロジー技術」、「潤滑油基材の基礎と技術動向」を計画している。Tribology Onlineでは、通常の年間4号発行に加え、WTC2017特集号を計画している。

3. 研究会

次の活動を計画している。

(学会指定研究会) 新領域・新分野開拓研究会 (新設)

(産学協同研究会) 添加剤技術, 固体潤滑, グリース, 転がり軸受寿命

(会員提案研究会) エンジン潤滑, 転がり疲れ, シール, 鉄道のトライボロジー, ファイル記憶のトライボロジー, 摩耗, メンテナンス・トライボロジー, 塑性加工のトライボロジー, トライボケミストリー, 自動車のトライボロジー, アルミニウムのトライボロジー, 高分子材料のトライボロジー, “超”を目指す軸受技術, スペーストライボロジー, 分子シミュレーションのトライボロジーへの応用, 変速機のトライボロジー, 機能性コーティングの最適設計技術, テクスチャリング表面のトライボロジー, エロージョンとその応用, 境界潤滑, 工作機械のトライボロジー, トライボダイナミクス, 表面力

(地区研究会) 日本海トライボロジー, 北海道トライボロジー

4. 主な取り組み

各委員会がシームレスな活動を継続し計画的に目標を達成するため、以下に取り組む。

- ・ 事務局員の適正な労働環境を確保し柔軟性のある事務局体制を推進するため、新規事務局員を1名採用する。
- ・ 62期の非会員向けアンケート実施結果で明らかにした課題を解決するための活動を推進する。さらに個人会員を対象にアンケートを実施し活動に反映させる。
- ・ 規程類見直し作業として、今期は規則の内ガイドライン、マニュアルの見直しを各委員会で完了させる。これにより、曖昧な表現による解釈の相違や誤解をなくし、各委員会が活動しやすい環境を整える。
- ・ 和文論文は会誌「トライボロジスト」への掲載をやめてオンライン化することを検討する。
- ・ 会誌「トライボロジスト」出版費削減活動（第2次）を推進する。
- ・ 会誌「トライボロジスト」に加え、電子版トライボロジスト誌（J-STAGEに掲載）を発行する。
- ・ 英文電子ジャーナル（Tribology Online）を発行する。
- ・ Tribology Onlineの校閲業務における国際化をさらに推進する。
- ・ 米国STLEと論文出版関係の情報交換を行う。
- ・ 教育講習の各種講座（入門、テーマ別、スキルアップ、先端等）、懇談会の開催と並行して、講座再編の委員会を立ち上げ、第62期計画に沿った新講座の実施（第64期を予定）に向けた準備を推進する。第63期は参加者の利便性を考慮し、開催時期を見直す。
- ・ 英語版ホームページの構成見直しを図り、日本語版と同様のお知らせ機能を付与する。
- ・ 学会指定研究会として「新領域・新分野開拓研究会」を立ち上げ、第62期で終了した「オープンイノベーションを目指した技術動向調査研究会」で取り上げられたテーマの精査を含め、学会の柱となる研究領域・分野の開拓を目指す。
- ・ 論文賞およびTROL論文賞の一本化に向けて、規程、マニュアル等を整備する。
- ・ 協賛学会の見直しをする。さらに会員増強の一環で、非会員の参加登録料の見直しも行う。
- ・ トライボロジー会議2018春東京では、発表登録のし易さを考慮し、分類分けを変更するとともに学術分類をベースに聴講し易いプログラムを構成する。
- ・ 秋開催のトライボロジー会議2018秋伊勢では例年に倣い、企業技術者・研究者に親しみやすい学会を目指す。
- ・ 海外向け活動にも積極的に取り組み、第9回日中トライボロジー先端フォーラム（北九州）、第2回日台トライボロジーシンポジウム（台北）を開催する。またアメリカ潤滑学会との連携（学会誌の目次の掲載、若手シンポジウム等）について、STLEの年次大会（ミネアポリス）で検討する。
- ・ 日系海外現地法人で働くエンジニアの技術交流機会の提供を目的に、第4回トライボロジー国際技術交流会をタイ・バンコックで開催する。
- ・ ITC2019 Sendaiの講演数・参加数増大のために名刺大のパフレットを2018年の国際会議で配布する。